授業科目	聴覚障害Ⅱ（聴覚検査法）				
担 当 者	矢吹裕栄・福田信二郎				（オムニバス）
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学　　年	1年	総単位数	2単位
		開講時期	後期	選択･必修	必修

■ 授業目的・内容

・前期の学習内容から更に聴覚検査法の基礎を確認する。（矢吹）
・今まで学習した解剖・機能と検査等の基礎知識の関連を確認する。（矢吹）
・人工内耳の原理と機能、調整の基礎を確認し、装用者の実例を知る。（矢吹）
・標準純音聴力検査･語音聴力検査･インピーダンスオージオメトリー･自記オージオメトリー･SISI 検査･ABR 検査について、実際の聴覚検査機器を用いて手順と方法を学ぶ。（福田）
・幼小児の聴力検査について、聴覚検査機器などを用いて、ロールプレイしながら学ぶ。２年の聴覚障害Ⅲの準備教育として、臨床における補聴器装用について学ぶ。（福田）

■ 到 達 目 標

・聴覚器・疾患・検査結果の関連を整理する。（矢吹）
・人工内耳の仕組みを理解する。人工内耳装用者の実態を知る。（矢吹）
・検査機器の構成と検査の目的および手順について説明できる。（福田）
・幼小児の聴力検査について、種類と方法、適応年齢をいう事ができる。補聴器の構造と装用について概略を説明できる。（福田）

■ 授 業 計 画

第１回　聴覚検査法１：主な聴覚検査の概要を確認する（語音聴力検査）（矢吹）
第２回　聴覚検査法２：主な聴覚検査の概要を確認する（他覚的聴力検査）（矢吹）
第３回　聴覚検査法３：主な聴覚検査の概要を確認する（その他の検査）（矢吹）
第４回　聴覚障害の評価と支援の概略を確認する（矢吹）
第５回　聴覚障害の実習の流れをケーススタディで確認する。（矢吹）
第６回　聴覚障害の原因となる疾患を復習する（矢吹）
第７回　聴覚器・疾患・検査結果の関連を確認する（グループワーク）（矢吹）
第８回　標準純音聴力検査について（福田）
第９回　標準純音聴力検査の検査演習（福田）
第10回　標準純音聴力検査の検査演習（福田）
第11回　インピーダンスオージオメーターについて（福田）
第12回　インピーダンスオージオメーターの検査演習（福田）
第13回　語音聴力検査について（福田）
第14回　語音聴力検査の検査演習（福田）
第15回　語音聴力検査の検査演習（福田）
第16回　Bekecy 検査について（福田）
第17回　Bekecy 検査の演習（福田）
第18回　Bekecy 検査の演習（福田）
第19回　閾値上検査について（演習含む）（福田）
第20回　聴性脳幹反応聴力検査（ABR）について（福田）
第21回　聴性脳幹反応聴力検査（ABR）の検査演習（福田）
第22回　聴覚検査結果の解説　検査目的と意義（福田）
第23回　聴覚検査結果の解釈（症例検討）（福田）
第24回　幼小児の聴力検査（新生児聴覚スクリーニング検査、BOA）（福田）
第25回　幼小児の聴力検査（VRA、COR、ピープショウ、遊戯聴力検査）（福田）
第26回　幼小児の聴力検査（ロールプレイ）
第27回　発達遅滞例の聴力評価（福田）

第28回　発達遅滞例の聴力評価（臨床の実際）（福田）
第29回　補聴器の構造と機能（福田）
第30回　まとめ（福田）

■ 評価方法

筆記試験100％

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

・前期の聴覚障害Ⅰの内容を踏まえて授業が進みます。聴覚障害Ⅰの内容での理解に不安のある場合は復習をしておく必要があります。（矢吹）
・各種聴覚検査の目的・適応・方法について理解すること。（福田）
・空き時間をみつけて、学生同士で互いに測定しあい、標準純音聴力検査およびティンパノメトリーのプローブ装着が適切にできるようになること。（福田）
・幼小児の聴覚検査の種類と適応年齢について覚えること。補聴器の基本的な構造と機能を説明できるようになること。（福田）

■ 教　科　書

書　名：聴力検査の実際
著者名：日本聴覚医学会　編
出版社：南山堂

■ 参考図書

書　名：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第３版
著者名：藤田 郁代
出版社：医学書院

■ 留意事項

・１年後期は前期に比べ日程が厳しく、欠席をするとその遅れを取り返すのが大変なことが多いです。無断欠席や遅刻に注意してください。（矢吹）
・基本的には学習内容は講義で使用するスライドに記載されています。講義はスライド中心で進行します。（矢吹）
・各種聴覚検査演習では、座学で理論を学び、その後に実際の検査機器を操作する演習を行います。（福田）
不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合がある。変更が生じた場合は、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。